



遠近新聞  
第十九號

定價一匁



西垣文庫  
文庫 10  
7265  
17



特 文庫10  
7265  
17

今日佛国より菅沼左近將監栗本安藝守以下横濱へ  
着船よお成りいす

西垣文庫

5728



遠近新聞第十九号

慶應四年五月十七日

横濱日刊新聞より抄出

アビシニヤ國亞非利加洲の戦争の事

四月九日バサロ地名在留シヤ、ロベルト、ナビー

ル人より傳信機の報告

予明朝マグラ地名の下又陣を取らんと欲す

マグラを思ひの外重地勢甚險岨あり

予當地又三日駐まりて軍勢の来着を待ち且兵糧を

集めり

遠近新聞

第十九号

九十五

今もダランダ名地の近辺より兵糧自在に来たり

予テアドルアビレニヤ国の王の名へ手紙を送りて返事来らん

○四月十三日マグダラよりの報告

去る金曜日マグダラに於て英吉利軍勢とテアドル  
の軍勢と合戦ありテアドル方敗北して死傷少  
うし英吉利方の怪我人も即死一人もあ  
次の日マテアドルより生捕あり又ハ今まで使ひ  
かきつゝ歐羅巴人を不残我陣屋に引渡せり  
テアドルも英吉利方より催促をれども未だ降参せ  
ば英吉利方より二十四時の間ハ決意をあらべき旨

を中遣をせり

テアドルの軍勢ハ全く気折れしり

四月十四日マグダラよりの報告

テアドルの軍勢ハ去る十日の大敗より銳氣大に挫  
けしり

頭分の者もセラレイの切所を引渡り数千人の軍卒  
降参せ

テアドルも逃残りしり軍勢を引連れてマグダラに  
退陣せ

マグダラを十三日ハ落城せり

テヲドルと討死ししより  
英吉利方の損込も僅らして大凡大砲三十挺を取ら  
ししのみ

四月十四日出マダガラより文通の抜書

英吉利方のシヤ、ロベルト、ナピール人よりアビシニ  
ヤ方のテヲドリスは降参せしと説進めんとす  
テヲドリス之は後日之より山砲、臼砲及ひ火矢砲  
隊を掩護してマダガラを攻落さんとせり  
英國女王殿下の第三十三レヂメント隊も其打ち入  
りの隊とあり土工兵隊之は先立ちしり

テヲドル方の軍勢数千人もセルレイといふ所は  
かろく武器を地にかろく降参しし之は依り英吉  
利勢の難あく其地を取りしり

テヲドルと残りの軍卒と共に爰を先途とマダガラ  
を守りて防戦せしり戦争の中は打殺されしり  
英吉利勢の討死せし者も僅ら十五人なり

○五月五日伊豆守殿由渡し書舟より写

亀之助様由車 上様と奉称 上様由事ハ 前上様  
との奉称旨此程お達しし右の由旗本由家人同士限  
り中上由儀す他は在為對由由稱呼す之無之由

同自他の差別にお混雑の致旨向々を可達置の

五月

○ 芝増上寺内は銃隊及び其外の兵士屯集の事第十七号に載せしが全く一時の事にて十日より皆々引取らるるに成り

○ 横濱は是迄肥前の兵にて固め居りしが去る十日頃紀州の兵と交替は成りしるよし

○ 五月九日廻状の写

伊豆守殿に渡す書舟別紙お廻し申右書舟の趣は府各振る内當四月十一日御岡城迄は勤王の證書に差出は成り申方には差出の月日等取調早々拙者方迄は仰付の廻状刺附を以て早々申順達可成り

別紙に書舟写

歸順の輩 朝臣に 仰付の旨別紙の通 大総督

府より 仰出の右に當四月十一日御岡城迄は勤王の證書差出の者の趣は申間を得其意に

右之趣由旗本出家人中不洩扱あはれに申お觸ふに

五月

旗本帰順之輩自今朝臣あそびに仰舟あやふね以間あひま此段このへらお達とどに

以事

五月

當番由目舟中より達書別紙一通お廻まわし申右達書  
の趣おもは舟各振之内関西せきいは菜地さいち有あ之分ぶん 天領てんりやうは  
仰舟あやふね又または子細こまか有あ之通路つうろ無な之分ぶん 右みぎ訊き柄は巨細こまかは取  
調しら早々はや拙者わが方かた迄いた申差出さしだし申成なに  
江戸えどは孫まご在あに万石まんせき以下以下之面々あちこち関西せきい菜地さいち有あ之分ぶん

天領てんりやうは仰舟あやふね又または子細こまか有あ之通路つうろ無な之分ぶん 右みぎ訊き  
柄取は調しら巨細こまかお認ま早々はや拙者わが共どもは申差出さしだし有あ之を以も以も  
上

五月

○参謀さんぼうは届書とどめがきの写

細川越中守

四月廿七日岩倉殿申供途とも中ちゆうより七千人しちせんにん程ほど出奔しゅっほん仕しに  
万一越中守浪人名前なまへ申ま立て乱戦らんせんの仕し哉やも斗たうり難がた  
く以間あひま此段このへら申届ま申上あに右みぎは舟ふね申奉ま公難こうがた有あ以得え共ども申  
免まに下したに招奉ま願ねが上あに以上

四月

戸田采女正

追討由奉公大坂に勤兵在外四月廿七日二百人出  
奔仕由は舟主人初め一同不行届き之次第奉恐入  
右は舟国元は兵帰謹慎の上中訳仕度此段奉願上  
以上

四月

右は真偽末ど詳まらざれども暫く誌して看官の  
参考は備ふ

十五日曉七ツ時頃より上野に屯集せる彰美隊其外  
諸藩脱走のものゝと官軍方の薩列尾列長列細川肥前  
のよゝ戦争相始すり一時は接戦すゝ双方の勢破作  
の如くありしが終に官軍勝利すゝ進んで山内に入  
りしるす

○

彰美隊

遊撃隊

純忠隊

忠兵隊

隊長

一聯隊

八聯隊

砲兵隊

撤兵隊

會藩隊長久木定之助

同 頭取山田亥之助

猶興隊

神奈川歩兵

浩氣隊

酒井若列脱藩

万字隊

久世謙吉

卧龍隊

越後高田脱藩

松石隊

播州明石脱藩

水心隊

結城水野日向守脱藩

酒井雅樂頭

右ハ上野ニ屯集せる兵隊の由



